

09

September
2024

[月刊]キリスト教書評誌

本の

HON-NO-HIROBA

ひろば

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2024年9月1日発行(毎月一回1日発行)第801号

出会い・本・人

井上良雄著『神の国の証人ブルームハルト父子』

佐々木 潤

特集シリーズこの三冊！

エコロジーの視点から聖書を読むためのこの三冊！

鬼頭葉子

書評／エッセイ

大串肇著『VTJ旧約聖書注解エレミヤ書1〜20章』

出版にあたって 小友 聡

本・批評と紹介

並木浩一著 ヨブ記を読もう 塩谷直也

オリゲネス著／小高 毅訳 キリスト教古典叢書

諸原理について(ペリ・アルクーン) 金子晴男

加藤常昭著 慰めとしての教会に生きる 小泉 健

袴田康裕著 コリントの信徒への手紙二講解(下) 坂井純人

ラインホルド・ニーバー著／千葉 眞訳

道徳的人間と非道徳的社会 柳田洋夫

松木 充著 聖霊による福音宣教 河野克也

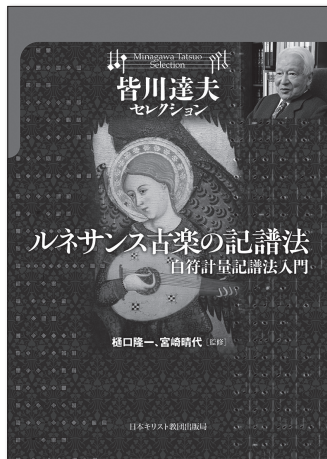
クラリッサ・スタート・デヴィッドソン著／久野 牧訳

ナチズムと闘った牧師 武田武長

柳下明子編 信仰生活ガイド 祈りのレッスン 近藤 誠

鹿住輝之著 キルケゴールのキリスト論 須藤孝也

ルネサンス期の楽譜が読めるようになる古楽愛好家待望のテキスト



皆川達夫セレクション

ルネサンス古楽の記譜法

白符計量記譜法入門

2024年8月23日刊行予定

皆川達夫 樋口隆一／宮崎晴代 監修

15・16世紀ルネサンス音楽で使用された「白符計量記譜法」の解説は、五線譜に慣れ親しんだ現代人には難しい。長年中世音楽合唱の普及に尽力した西洋音楽史学者が、ルネサンス期の楽譜を原典で歌う上で必須の知識を、豊富な実例・譜例を交え初学者向けに解説。

◆B5判 上製・64頁・定価3,080円

シリーズ
刊行案内

『宗教音楽の手引き』 定価1,540円

『音楽も人を救うことができる』

2024年10月刊行予定

『信徒の友』記事を再編集した、信仰生活の基本を確認するシリーズ

信仰生活ガイド《全8巻》

苦しみの意味

柏木哲夫 編

2024年8月23日刊行予定

人生に襲いくる数々の苦しみ。こうした苦しみに出会うと多く人は不運を嘆き、人と社会を呪う。しかし聖書は「苦しみという他者」と向き合うことこそ乗り越える唯一の道であると説く。様々な実体験を紹介しながら読者と共に「あなたの苦しみの意味」を考える。

◆四六判 並製・128頁・定価1,540円



シリーズ
刊行案内

第2期 各巻 定価1,540円

『祈りのレッスン』『老いと信仰』

第1期 各巻 定価1,430円

『主の祈り』『十戒』『使徒信条』
『信じる生き方』『教会をつくる』



父ブルームハルト



子ブルームハルト

井上良雄著 『神の国の証人

ブルームハルト父子』

佐々木

潤

著者の名前は知っていた。父の神学校時代のアルバムに「運動会で綱引きをする井上先生」との書き込みで写真が貼ってあった。その神学校に自分が行くときに教会の牧師夫妻から贈られたこの本が、本棚の最初の書物となった。

父ブルームハルトにとって「いやし」とは戦いであり神の国のしるしだ。教会員に憑いていた悪霊が「イエスは勝利者だ！」と叫びながら消えていくところは、ホラー映画の場面を思わせるが、序章に過ぎない。

子ブルームハルトは、亡父の後継を期待し賞賛する人たちに囲まれながら、これはキリスト教的な肉の思いだ、と怒り、「死ね、さらばイエスは生き給う」との標語を掲げる。その彼を訪ねて師事した人たちの中に、若きバルトとトウルニアイゼンがいた。

この本は、ドイツにいた牧師二代の評伝であり、バルト神学の入門書でもある。

寮の読書会でこれを読み終えて興奮した私たちは、著者に行こうと気炎をあげて井の頭公園近くのお宅に押しかけた。ブルームハルトの気配もなく、綱引きなど挑みそうにもない、ジャコメッテイの彫刻風の細身の先生だった。伝説の人を前にして、みな緊張してしまい、いまの神学校への思いなど聞き出せるはずもなく、当たり障りのない話ばかりで座は全く盛り上がらなかった。

困っているところに助け舟を出すように「うちでも読書会をしているのですよ。ドイツ語ですが」とおっしゃる。「どんな人が集まりますか」。「牧師とか、主婦とか、学校の先生とか」。「来てもいいですか」。「ええ」。それで来てみたら、ただならぬ方々の集まりではないか。まいったな。そういうわけで、このときから手ほどきを受けてバルトを読み始めることとなった。



▼シリーズ この三冊！

エコロジーの視点から聖書を読むための この三冊！

鬼頭葉子

(きとう・ようこ…同志社大学文学部准教授)

産業革命以降、工業化と人口増加の両面から環境に対する負荷は高まり、二〇世紀後半には環境危機が叫ばれるようになりました。一九六二年、米国の生物学者・作家レイチェル・カーソンが発表した『沈黙の春』は、地球環境の危機を多くの人々に警告したことで知られています。

一九六〇年代以降の環境問題への関心は、欧米のキリスト教社会に対する批判も呼び起こしました。歴史学者のリン・ホワイトは、一九六七年の論文「私たちの環境危機の歴史的起源」(『機械と神』

(みすず書房、一九九九年)所収)の中で、ユダヤ教およびキリスト教においては、人間は地球上のすべての生命に対して優越しており、一切の自然を利用するために創造されたという考え方が支配的であると批判しています。ホワイトによれば、キリスト教は「世界中で最も人間中心主義的な宗教」であり、「大きな罪の重荷を背負っている」とされます。

ホワイトの論考は、神学者たちの間で、従来の神学に対する批判と新たな聖書理解を試みさせる契機となりました。「環境神学(ecothology)」と呼ばれるこの

新たな神学思潮は、人間以外の被造物への配慮や責任を考察します。エコロジーの視点から聖書を読むために適した書籍を三冊紹介します。

リチャード・ボウカム『聖書とエコロジー——創られたものすべての共同体を再発見する』

ホワイトは、聖書の記述に依拠しつつ、キリスト教が人間による自然の過剰利用を助長してきたと批判しました。ホワイトの見解については比較的早い段階から、聖書学者らによる反論が寄せられてきました。たとえば、ドイツの神学者ゲルハルト・リートケは、一九七〇年代以降、旧約学を背景とした環境保護について論じています。

ボウカムもまた聖書学者の立場から、神の創造した世界における人間の役割を考察しています。ボウカムは、『ヨハネ黙示録の神学』や『イエスとその目撃者たち』(邦訳はいずれも新教出版社刊)

などの著作で知られる英国の新約学者です。本書においてボウカムは、聖書全体が提示する被造世界についてのビジョン（ボウカムはこれを「被造物の共同体」と呼びます）を明らかにしています。ボウカムの理解によれば、創世記一章における「地を従わせよ」「あらゆる生き物を治めよ」との記述は、人間が地球上のすべての被造物の管理者・監督者になるようにという促しではなく、また人間による支配を責任ある「スチュワードシップ（受託者責任）」と理解する従来の見方も不十分です。ヨブ記をはじめ、創世記以外の聖書箇所では、人間もまた被造世界の一員であることが示されており、被造物の共同体のメンバーは、生命と繁栄に共通の利益を持ち、創造主を讃えるという同様の目的を持っているため、相互に依存し合っています。

ボウカムによれば、イエスの死は被造物全体の苦しみや滅びを分かち合ったことを意味しており、人間の贖いだけに焦

点を当てたものではありません。キリストは十字架によって全被造物を和解させ、その復活によって万物を刷新します。教会在が宣べ伝える和解には、神との和解だけでなく、神が創造したすべての被造物との和解も含まれることとなります。

本書は、講演をもとにしているため読みやすいですが、ボウカムが提示する聖書の解釈には多くの驚きがあるでしょう。

サリー・マクフェイグ『ケノーシス

——大量消費時代と気候変動危機における祝福された生き方』

フェミニズムの分野でも早い段階から、環境について議論されてきました。一七四年、フランスのフェミニニストであるフランソワーズ・ドボンヌは「エコフェミニズム」という呼び名を提唱しました。フェミニズムの環境問題への注目は、開発至上主義による自然の搾取と、男性による女性の支配には連関があるという視点に由来します。

エコフェミニスト神学者のマクフェイグは本書で、環境危機は経済（特に大量消費社会）と密接にかかわっていることを指摘し、この社会には人生の目的を「消費すること」と捉える「消費主義」という「異教」が蔓延していると言います。環境危機を乗り越えるためには、これまでの生活のあり方を変える必要がありますが、それは容易ではありません。

ここでマクフェイグは、キリスト教会が「回心」と呼ぶ行動の変化に着目します。マクフェイグによれば、回心は私的な聖化にとどまらない、公的な領域への参与を意味します。取り上げられるのは、ネイティブ・アメリカンや黒人奴隷の正当な扱いを主張したクエーカー派の伝道者ジョン・ウルマン、ナチスに占領されたパリの人々に寄り添って餓死した思想家シモーヌ・ヴェイユ、そしてカトリック労働者運動の創立者ドロシー・デイの回心です。三人の回心には、いずれもその視線を自分から他者へと移す「普遍的

自己」への変化があるとされます。マクフェイグによれば、宗教は単に「私と私の幸せ」に関するものではなく、人を個人主義から共同体へと動かすものです。ここからマクフェイグは「ケノーシスの神学」を提唱します。ケノーシスとは、フィリピの信徒への手紙二章五〜八節にあるキリストの自己無化・自己空化のことですが、私たちがまた自己を空しくすることで、他者（すべての被造物）と自己を隔てる境界がなくなり、他者への愛に生きるようになります。このようにマクフェイグによれば、個人レベルでよく生きることは、政治レベル・地球レベルでよく生きることと並び立つものです。環境問題について、信仰に基づき自らの行動をどう変えるのが問われる一冊です。

アンドリュー・リンゼイ『神は何のために動物を造ったのか——動物の権利の神学』

人間以外の被造物である動物も、エコ

ロジの観点から考えることができます。動物の動物的地位について考える動物倫理は、一九七五年にオーストラリアの哲学者ピーター・シンガーが著した『動物の解放』を契機に発展してきました。シンガーは、感覚を持つ動物は、人間と同じく平等な配慮に値すると主張しました。

本書（原題『動物神学』）の著者である、英国国教会司祭で神学者のアンドリュー・リンゼイは、人間と動物は道徳的には平等であるという点でシンガーに同意しますが、人間は創造において特別な地位を与えられ、「独自性」を有すると考えます。リンゼイにとって人間の独自性とは、人間だけが理性を与えられており、また神との関係を持ちうるといった伝統的な神学的理解にとどまるものではありません。人間は世界の贖いと解放に関して「神と共に参与する者、共にはたらく者」として人間性を発揮し、他者に仕える能力がある点で動物と区別されます。そしてリンゼイは、キリストの模

範があるからこそ、人間には「キリストに似た支配と奉仕」、すなわち「より高いもの」が「より低いもの」に対して犠牲を払うことが求められており、脆弱なものに仕える者は、キリストにも仕えるのだと主張します。またリンゼイは、シンガーが提唱したような、人間と同じく動物の利益を平等に配慮する行動様式（平等パラダイム）を超えて、動物を利用せず、そのことで人間の生活に不利益が生じてもそれを耐える犠牲的な行動様式（寛大さパラダイム）を提案します。リンゼイによれば、菜食主義の実践は「寛大さパラダイム」の一例であり、聖書が理想とするものであるとされます。本書は、聖書における人間と動物の地位や両者の関係性について、そしてキリスト者として動物をどのように配慮すべきかを考えさせてくれる一冊です。

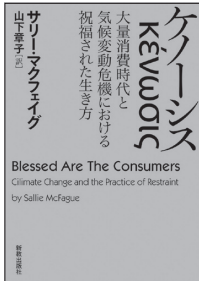
おわりに

環境をめぐる神学的議論は現在も発展



『聖書とエコロジー
——創られたものすべての
共同体を再発見する』

リチャード・ボウカ
ム：著
山口希生：訳
いのちのことば社
2022年刊
四六判 364頁
2,420円



『ケノーシス——大
量消費時代と気候変動
危機における祝福され
た生き方』

山下章子：訳
新教出版社
2020年刊
A5判 398頁
4,400円



『神は何のために動
物を造ったのか——
動物の権利の神学』

A.リンゼイ：著
宇都宮秀和：訳
教文館
2001年刊
四六判 320頁
3,630円

を続けています。世界改革派教会共同体（WCCRC）や世界教会協議会（WCC）は今世紀に入り、文書や宣言を發出しました。またカトリック教会でも、教皇フランシスコが「回勅 ラウダー・ト・シ——ともに暮らす家を大切に」（二〇一五年）と「使徒的勧告 ラウダー・テ・デウム——気候危機について」（二〇二三年）を公布しています（いずれもカトリック中央協議会から書籍として刊行されており、ウェブサイトからも読むこと

ができます）。世界における環境神学の議論に比べ、日本からの発信は多くはありませんが、今後の展開を期待させる動きもあります。関西学院大学「キリスト教と文化研究センター」が二〇一九―二〇二二年度に行ったプロジェクト研究「エコロジカル聖書解釈」の成果が『エコロジカル聖書解釈の手引き』（関西学院大学キリスト教と文化研究センター編、キリスト新聞社）として今年三月に刊行されました。

キリスト教主義学校の授業や教会学校での使用を想定しており、セクションごとに議論のための問いかけが置かれ、考えるためのヒントに溢れています。エコロジーの視点から聖書を読むことは、私たちの生活に革新を迫りますし、またこれまでの聖書の読み方が変わるようなスリリングな体験になるはずで、今紹介した書物とおして、聖書との新たな出会いがあることを期待したいと思います。

大串肇 著『VTJ旧約聖書注解 エレミヤ書1〜20章』出版にあたって

最期の病床で攔筆した渾身のエレミヤ注解

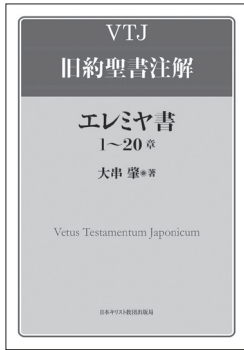
小友 聡

VTJ旧約聖書注解シリーズはすでに七巻が刊行されていますが、今回の『エレミヤ書1〜20章』は特別な意義を持っています。それは、日本人研究者によるエレミヤ書の学問的注解書がついに刊行されたという意義だけではありません。この『エレミヤ書1〜20章』は、エレミヤ書研究に精魂を傾けた大串肇^{はらむ}先生の生涯最後の著作だからです。これを書くために、大串先生は息を引き取るまで全力を注がれました。この注解書を遺して先生は主の御許に召されました。出版を見届けることはできませんでしたが、本書はエレミヤ書を解き明かそうとする著者の熱情と強烈なメッセージを私たちに伝えます。

エレミヤ書は、今日、旧約文書の中で最も注解が難しい書だと言われます。そもそもエレミヤは紀元前7世紀から6世紀、ユダ王国が破局に至る激動の時代を生きた預言者

ですが、エレミヤ書の成立はそのずっと後の時代です。エレミヤ書研究は、一九七〇年代以降、編集史的方法論が主流となり、預言者エレミヤの言葉に申命記史家（申命記主義者）が複雑に手を加えていることは自明だと説明されるようになりました。錯綜した編集の経緯があるゆえに、エレミヤ自身に遡る部分はほとんど見えなくなりました。この研究史的状况を踏まえてエレミヤ書を注解するということは至難の業となっています。

大串先生は、長年、編集史的研究に打ち込まれ、独自のやり方でエレミヤ書の解釈に挑まれました。それが本注解書です。エレミヤ書に見られる、審判と救済という相反する主題を解きほぐし、その編集の複雑な歴史過程を丁寧に辿ってゆく解釈です。エレミヤの宣教の言葉（ケリュグマ）が申命記主義者たちによって継承され、その限りにおい



『VTJ』旧約聖書注解
エレミヤ書 1～20章』
大串 肇 著
A5判、616 ページ
定価 9,240 円 [税込]
日本キリスト教団出版局

て、エレミヤの言葉の意図は最終的なテキストにおいても読み取れると大串先生は考えておられます。宣教的解釈と呼びうる方法です。そこに本注解書の特徴と意義があります。

エレミヤ書は52章まであり、本注解書は20章までしか扱っていませんが、大串先生の長年のエレミヤ書研究が本書に遺憾なく発揮されています。扱われるそれぞれの単元の注解結論には「解説／考察」があります。そこには説教黙想の示唆があり、新約聖書の福音について、また教会についてしばしば言及されます。大串先生はこの注解書を通して教会の牧師たちに、すなわちエレミヤと同じように苦悩している同僚たちに、語りかけているのです。

* * *
著者、大串肇先生を皆さんに紹介します。大串肇先生は

日本ルーテル学院大学で教鞭を執り、日本基督教団仙川教会牧師を最期まで務められました。父上、大串元亮先生^{も、五十四}も預言書研究で知られる旧約学者で、先代の仙川教会牧師でした。その父上を尊敬し、継承するという人生を肇先生は選び、一九八五年に東京神学大学修士課程を修了して牧師になりました。修士論文はエレミヤ書研究。初期エレミヤの人間論的用語「心」(レーブ)について分析した論文で、ここから大串先生のエレミヤ研究が始まります。

卒業後にボン大学に留学。エレミヤ書研究で有名なW・H・シユミット教授の指導を受けました。帰国後に父上に代わって仙川教会を継承し、二〇一二年にはエレミヤ書研究で東京神学大学から神学博士の学位を授与されました。タイトルは「頑な心と新しい心―エレミヤ書の審判と救済の通告における人間論的視座―」。修士論文以来、三十年近い歳月をかけた研究の到達点でした。

牧師として、また旧約研究者として、それまで順風満帆であったと思います。しかし、その後、大串先生は悪性リンパ腫の宣告を受けました。ちょうど、仙川教会と付属幼稚園の再建という問題に直面した頃でした。幸いにも最新の治療を受けて回復し、完治したかに見えましたが、二〇二二年に再発し、翌年一月八日に天に召されました。



大串 肇 略歴

1957年東京生まれ。東京神学大学大学院修了後、ボン大学に留学。神学博士。2023年まで、日本基督教団仙川教会牧師、ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校教授。2023年1月8日逝去。
〈主要著書・訳書〉『頑な心と新しい心』（教文館、2013年）、C. ヴェスターマン『預言者エレミヤ』（新教出版社、1988年）ほか。

六十五歳でした。長い闘病期間に、牧師として教会堂と幼稚園を新築し、また日本ルーテル神学校教授も務め、多くの神学生を育成しました。

あとは、エレミヤ書注解を完成させることが願いでした。その最後の願いは、注解書の前半部分を書き上げるのみで終わりました。本注解の解説文には、「なぜ、神の僕である預言者が試練を受けねばならないのか」という叫びにも似た問いがしばしば出てきます。それは著者、大串肇先生御自身の思いと重なります。無念であったと思います。けれども、本注解書は「嘆きから賛美へ」で締め括られます。試練に生きる者の嘆きは賛美に変えられるのだ、という大串先生の信仰告白がいわば大団円になって本注解

書は閉じられています（564頁）。あらゆることに全力で取り組み、教会、幼稚園、神学教育、著作出版という仕事を最後まで務められた大串肇先生の生き方は実に見事であったと言わざるをえません。

評者は牧師として、また旧約学の学徒として大串肇先生と共に歩んできました。神学大学ではほぼ同期でした。その神学生時代、大串先生はプリンスと言ってよいまぶしい存在でした。その先生が、旧約学者であった父上の果たせなかつたエレミヤ書注解執筆を成し遂げたことを評者は同僚として誇らしく思います。

振り返ると、大串先生が病氣治療を余儀なくされた頃、評者も脳梗塞を経験しました。評者も同じように教会堂と付属保育園の建築を終えたばかりで、三度目の発作が起きたときには死を覚悟させられました。それだけに、牧師かつ神学教師としての大串先生のぶれない生き方、前向きな姿勢は評者には励ましとなり、覚悟の力となりました。

本注解書の「あとがき」は著者の最後の病床で書かれました。病室には書斎のようにたくさんの本が置かれていたそうです。一部を引用させていただきます。

「コロナ禍の下、危機の中にあつて苦しみ、叫び、キリ

日本語で書き下ろす
聖書注解シリーズ

VTJ 旧約聖書注解

好評既刊タイトル

出エジプト記 1~18章

鈴木佳秀◎著

320頁・定価4,840円

出エジプト記 19~40章

鈴木佳秀◎著

334頁・定価4,840円

申命記

鈴木佳秀◎著

498頁・定価8,580円

サムエル記上 1~15章

勝村弘也◎著

450頁・定価7,260円

列王記上 1~11章

山我哲雄◎著

458頁・定価5,280円

コヘレト書

小友 聡◎著

210頁・定価3,520円

イザヤ書 1~12章

大島 力◎著

202頁・定価4,400円

日本語で書き下ろす聖書注解

VTJ・NTJ

シリーズについて

詳しくはWEBを

ご覧ください▶



日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457

E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)

<https://bp-uccj.jp>

ストの福音を宣教しようと懸命に働き、心身ともに疲弊している同労の牧師や伝道者とその家族、そして教会の人々のために祈りたい。どうか、エレミヤの悲痛な叫びや嘆きの中に慰めを見出し、エレミヤ書の言葉に希望を見出すことができるように。本注解書がそのために貢献できるように、実際の宣教の現場である教会の説教や聖書研究などで広く、長く用いられるように心から願う次第である」(567頁)。

この「あとがき」の言葉を読むと、評者は目頭が熱くなります。ここには、注解書を執筆した著者の思いがストレートに書かれています。注解書は単なる聖書の解説ではなく、教会を形成する伝道者を励ます言葉なのだということとがひしひしと伝わってきます。そういう言葉を紡いで、

教会を愛し、伝道に生き、最後に本注解書を遺された大串肇先生の名を心に刻みます。「あとがき」には、御遺族の浩子夫人の言葉が添えられています。この添え書きは評者などの提案によって実現しました。

本書は御遺族にとっても、また仙川教会にとっても、故人を偲ぶ大切な書となります。どうかこの注解書が多くの牧師、信徒の皆さんに読まれ、エレミヤのような苦難の現実の中でも、たじろがず、希望を見出すことができま

すように。(『VTJエレミヤ書21~52章』は、東北学院大学の田島卓たか先生が執筆することになりました。)

(おとも・さとし 日本旧約学会会長)

冷酷な人にならないために

〈評者〉塩谷直也

科学特捜隊のイデ隊員が、ウルトラマン第三十七話『小さな英雄』（一九六七年放映）で放ったセリフが忘れられない。新兵器を開発しても結局ウルトラマンが怪獣を退治するので、彼は自分の仕事に興味を見出せないでいた。やがて戦意を失い、無気力な顔でつぶやく。

「ウルトラマンが今に来ると……」

まあそう頑張らなくても最後は正義の味方がやってきてすべて整えてくれる。悪代官は水戸黄門が懲らしめるし、不正を見逃さない大岡越前も江戸を巡回している（ことごとく例が古くてごめんなさい）。世界は不条理によって日々ゆがみが生じる。しかしこのゆがみをヒーローたちが定期的に正し、創造の秩序を回復するのだ。この期待こそが苦しむ民衆のささやかな「救い」。だがこの「救い」には重い副作用があった。創造性、可能性を奪われた、無気

ヨブ記を読もう
苦難から自由へ



ヨブ記を読もう

苦難から自由へ

並木浩一著



力で無責任、依存的な「イデ隊員」を形作るのだ。

キリスト教の終末論も、安易に受け止めればこのような信徒を量産しかねない。「万事が共に働いて益となる」のです。正義の神を信頼しましょう（「悪は滅びる」と信じ切れば面倒なことは考えずに済みますし）……この「安易な終末論」を徹底的に打ち砕く書、それが「ヨブ記」なのだ、本書を読み終えて感じる。

これは専門書ではない。よって文章は平易。しかし盛りだくさんな内容はそう簡単に消化できない。「ヨブの言葉はしばしば両義性を發揮して、言葉の裏を読むようにと読者を導きます。ヨブ記者は読者を鍛えるためにヨブ記を書いたのかもしれない」（一四頁）とあるように、「イデ隊員」のような読者を一から鍛えなおす『ヨブ記』に足を踏み入れるのだ。お手軽な読書で終わるはずがない。それでも鍛

えられたその先に創造性を、自由を取り戻せる予感がある。記載された二次元コードから無料ダウンロードできる「ヨブ記 並木浩一訳」の全文も助けになった。猛々しい信仰の躍動が、じわじわと行間によみがえってくる。

ただ著者のテキスト解釈に「果たしてそこまで読み込めるのか？」と戸惑う場面もあった(例えば42章1〜6節の解釈)。しかし「解釈なしにテキストの意図は引き出せませんので、本書では筆者の解釈を記します」(一一頁)と明言する著者からの、それは挑戦でもあろう。「ヨブ記」を読むとは「〇〇がこう解釈した」で立ち止まらず、読者自身が逃げずに実存をかけて「ヨブ」「神」そして「苦難」と向き合わなければいけないのだ、との挑戦状なのだ。

学生時代、時間になっても現れないので勝手に休講と判

ナウエン・セレクション《第6回記念》

平和の種をまく 祈り、抵抗、共同体



ヘンリ・ナウエン 渡辺順子 訳 徳田 信 解説
20世紀を代表する霊的指導者ナウエンが平和のつくり方を論じる注目の書。キリスト者のための平和入門に適している。世界に戦火の絶えない今こそ読むべき一冊。
四六判 並製・192頁・定価2420円

断し、教室をそろりと抜け出たことがある。その瞬間、ようやく登場した並木教授がユーモラスな声を廊下に響かせた。「シオタニ、逃げるな！」以来四十年、今もその声は本書を通して響く。この挑戦から逃げるなら、人は安易な終末論という安全圏から「悪人はおのずと没落」(九七頁)すると説き、苦しむ人に「自業自得でこうなったのだ」と論し、「正しい」自分に酔いながら相手を切り捨てることだろう。実に「応報原理は人を冷酷」(同頁)にする。

神から逃げなかったヨブ、そして生涯をかけて『ヨブ記』から逃げない、いや逃げられない著者からの励まし、そして祈りが、本書の隅々にまで行き渡っている。

(四六判・二二四頁・定価二六四〇円・日本キリスト教団出版局)

たからさがし 神さまからの不思議なおくりもの



望月 麻生
牧師・幼稚園園長の著者が日常における気づきを紡ぐ、安らぎと癒やしの珠玉エッセー集。「信徒の友」などの連載記事に書き下ろしを加えて単行本化。プレゼントにも最適。
四六判 並製・120頁・定価1540円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail: eiyogu@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)
<https://bp-uccj.jp>

キリスト教思想史で 最初の教義学的著作

〈評者〉金子晴勇



キリスト教古典叢書

諸原理について
(ペリ・アルコーン)

オリゲネス著

小高 毅訳



本書はオリゲネス (ca185-ca254) の名著『諸原理について』の新訳です。一般に思想史の研究は翻訳に始まり、その後の研究を採り入れながら、とりわけ底本の改訂版が出たときには、それに関する新しい研究をも取り入れながら、旧訳を完成させることが行われています。訳者の小高さんはこの新訳でそれを試み、模範的な仕事を成し遂げられました。それは実に素晴らしい快挙であると言うことができます。

この作品のギリシア語原典は散逸したので、全体はルフィヌスのラテン語訳でのみ残っています。それを訳した最初の創文社版(一九七八年)は実にわかりやすく平明な訳でしたので、わたしはそれを使ってオリゲネスの神学を学ぶことができました。しかしその後、原典のギリシア語の一部分が校訂本に組み入れられたので、その新版をわた

しも読まねばならないと感じていました。ところがこの度の新訳では、ラテン語訳とギリシア語断片の日本語訳がわかりやすく並べて示されていますので、とても学びやすくなっています。

二世紀の終わりに当分の文化都市アレクサンドリアには教理問答学校があつて、学問の一大中心地となっていました。そこで彼は教育を受け、さらにその教師として活躍しました。またオリゲネスは新プラトン主義の開祖アンモニオス・サッカスの教えを受け、豊かなギリシア哲学の教養をもってキリスト教の教義を組織的に説明しようとするめました。彼はこの名著『諸原理について』において、当時の文学類型である用語を積極的に用いて、ギリシア哲学の自然学が取り扱う問題——神・自然・人間——を考察し、キリスト教の教理を当時の人々に初めて組織的にわかりや

すく提示しました。博識な彼は実に多くの文献を参与しながら聖書を解釈し、信仰の思索を展開させ、キリスト教の教えを確立し、キリスト教思想史で最初の教義学者となりました。

彼はその学友の新プラトン主義者プロティノスが神なる一者からの世界の流出を考えたのに対し、神の世界創造を説き、ギリシア哲学者との一致点と相違点と明確に説き明かしました。そのさいユダヤ人のプラトン主義者フィロンの影響を受け、創世記一章と二章とを二重創造説として説き、魂の先在説を認めたため、異端視されるようになりま

した。だが、それも当時の世界観を使って人々がキリスト教をよく理解できるようにするために、プラトンの思想が使われたからなのです。

この度の訳書には付録として『ヘラクレイデスとの対話』という短い作品が付けられています。それによってわたしたちは当時の迫害の様子とオリゲネスの信仰がいかに優れているかを学ぶことができます。

(かねこ・はるお 岡山大学名誉教授、聖学院大学名誉教授)
(A5判・五三四頁・定価八五八〇円・教文館)



ナウエンの 《イエスさまに》 ついていこう

ヘンリー・J・M・ナウエン
ブラウネルのぞみ*訳



不安な心を抱える
あなたが辿る
我が家への道

「来なさい、私について
来なさい」と語りかけて
くださる主イエスの招き
の声を聞きたい。

四六判

定価 2,200 [本体 2,000 + 税] 円
ISBN978-4-86325-159-5



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

実践神学第一人者の白鳥の歌

〔評者〕 小泉 健



慰めとしての
教会に生きる

加藤常昭著



本書の著者である加藤常昭先生は、改めて言うまでもなく、日本のプロテスタント教会における実践神学の開拓者であり、とくに説教を世界的な水準にまで押し上げた神学者です。加藤先生は今年の四月二六日、九十五歳で主のもとに召されました。これからも加藤先生のお名前を冠した書物の刊行が続くでしょうが、本書は加藤先生がご自分で準備された最後の書物になります。加藤先生からの最後の贈り物として受け取りたいと思います。

本書には、二つの説教と十四篇の論文が収められています。論文のほとんどは講演であり、しかもそのうちの多くは教会で語られたものです。信徒にも牧師にも向けられています。どなたにも読んでいただきたい言葉です。

十四篇の論文は四部に分けられています。第I部は「説教と説教者をめぐって」、すなわち説教。第II部は「礼

拝をめぐって」、すなわち礼拝学。第III部は「魂への配慮をめぐって」、すなわち牧会学。第IV部は「伝道と教会形成をめぐって」。加藤先生のお働きが実践神学のほぼすべての領域に及んでいたことがわかります。

第I部が扱う説教学については、加藤先生はこれまでにすでに大きな著作をいくつもまとめてこられました。その上で、加藤先生がなお追求しておられたのは「霊性」の問題であったと言えます。福音を生きることです。信じることで生きることの全体に及び、浸透することです。考えてみると、加藤先生が周りの者たちに与えた影響も、学問的なことにまさって、加藤先生ご自身が濃厚に生きておられたこと、しかも、まさに福音を生きておられたことであつたように思います。

加藤先生は福音主義的霊性についての研究をまとめるに

は至りませんでした。その序説として考えたおられたことを論文「私たちの霊性の系譜」で読むことができます。

また、講演「説教の聴き方」は、説教の聴き手の霊性を問うておられると受け取ることができます。第三部に収められた「絶望において知る慰め・絶望における信頼」、第四部に収められた「ここを高く上げよう」もまた、霊性論になっていきます。いずれも加藤先生からしか聞くことができな、充実した考察です。

礼拝学を扱った第二部では「礼拝の祈りの深さと広さを！」が重要です。タイトルのとおり「祈り」に集中しているのですが、「神を礼拝する」とはどういうことなのかという、もつと根本的なことを教えられます。聖書の言葉に聞き、具体的な事例に教えられつつ、礼拝の祈りがまさ

に神に向って深められ、世界へと広げられます。

牧会学を扱う第三部では、何と言っても講演「日本のプロテスタント教会における魂への配慮（牧会）」が圧巻です。加藤先生の実践神学的な取り組みは、E・トゥルンアイゼン『牧会学Ⅰ』（日本基督教団出版局）の翻訳に始まります。ご自身でも『慰めのコイノニア——牧師と信徒が共に学ぶ牧会学』（日本キリスト教団出版局）をお書きになりましたが、これは入門書でした。ついに牧会学についてのまとまった論考を示してくださいましたのが、この講演です。五十頁以上にわたる重厚なものです。この一篇を讀むだけのためでも、本書を手に入れる価値があります。

（こいずみ・けん 東京神学大学教授）
（A5判・三三六頁・定価四二九〇円・教文館）

ヨベルの新刊・既刊案内

神権主義 五カ条の英文 邦訳初公開！

「日本教」の弱点

無責任性と日本人

西谷幸介 著

新書判・二二六四頁・定価一六五〇円

幼児的依存を純粹に 体现できる者こそ 日本社会で頂点に立つ。 最高権力者は言わば赤ん坊として全体を統治する。 赤子たるものにどうして過重なる責務を負わせたり、責任を問うたりできようか……。 上から下までこの構造にまるとこと取まっっている「日本教」の弱さを正面から見せ、私たちのとるべき生き方を指し示す慧眼の書。

無責任性！ 弱点！ 日本人の弱さ！

「日本教」の極点

西谷幸介 著

母子の情愛と日本人

新書判・二二六四頁・定価一六五〇円

山本七平、森有正らが遺した日本人論をたどり、「母子の情愛」が日本人特有の霊性の源流となつて国家宗教を形成するまでに至つたことを論証。

「日本教」の極点

西谷幸介 著

母子の情愛と日本人

●一四三三〇円

東西の霊性思想

金子晴勇 著

キリスト教と日本仏教との対話

ルター、法然、親鸞……多くのキリスト者を悩ませてきた仏教との対話は見出せるか。「霊性」が交流の可能性と理解を提示。

●一九八〇円

東西の霊性思想 金子晴勇 著

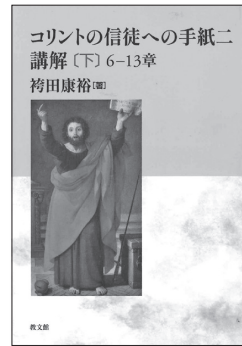
ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

キリストの教会を 健やかに建てあげる説教

〔評者〕 坂井純人

本書は、数多ある新約聖書の説教集の中でも、希少なコリントの信徒への手紙二の本格的な講解説教集である。コリントの信徒への手紙二の説教集が少ないことは、日本の教会の講壇の務めに生きたる説教者にとって、課題と筆者も感じてきた。しかし、この状況に新たな光を照らす説教集を世に問われた、畏友、袴田牧師の英断に感謝をするものである。何よりも、同牧師を用いて、混迷の時代に呻く、現代日本の教会に、非常に鮮明な御言葉の光を注いで下さった生ける主の御名を心から崇めたい。

この説教集からは、聖書原典における丁寧なワードスタディと神学的教理史的考察が明晰な論理の背景にあることが明確に伝わって来る。しかし、同時に簡潔な言葉で、信仰者の現実の中で、神の御言葉に向き合うような問いと答えへの適用が、どの説教にも散りばめられている。生ける



コリントの信徒への 手紙二講解〔下〕

6—13章

袴田康裕著



主の御言葉を、日々の信仰生活に活かす為のカテキズムの適用にも習熟した袴田牧師の賜物が、ここにも発揮されている。本来、講解説教とは、御言葉の意味を問い、御言葉の示す福音をして、信仰者を自発的な主への感謝の応答に導き、「主の民、主の教会を建てあげる」説教であろう。一回一回の説教が、全て、今、ここで生きたる会衆の具体的な信仰の姿勢を問い、養い、希望の内に建てあげる内容となっている点は、見事というほかない。

袴田牧師の説教の中で繰り返し用いられる言葉がある。

それは、「健全に」、「健やかさ」という表現である。例を挙げると「パウロの願望は、唯一つ、信徒たちが霊的に建てあげられることでした。(中略)。それは、信徒たちの群れである教会が、健全に建てあげられるということでもあります」(本書二四〇頁)。「私たちも『キリストにある者』



「目から鱗」第二弾！
フルート奏者・紫園 香氏 *イエスの声
が聞こえてくる。*息づかいまで聞こえ
る。イエスの体温が伝わってくる。*イ
エスの姿がビジュアルに迫ってくる。
最新刊！ 新書判・二〇〇頁・一三三〇円

聖霊は愛を完成する

ルカの福音書説教集 2

岩本遠億

キリストの平和教会牧師

として、パウロと同じ基本姿勢が求められています。人の前ではなく、神の御前に生きること。キリストの体である教会の一部として、体全体の健やかさのために生きること」です、とある(二四六頁)。信仰を個人主義的に捉え、神を観念的に語ろうとする危うさに対し、神と人との唯一の仲保者キリストに結ばれた福音の喜びが生む、具体的な生き方を、袴田牧師は、次のように明言する。「神の御前に生きることは、教会に生きることです。それゆえ、私たちもまさしく、キリストの体なる教会を造り上げるために召されています」(二四七頁)と。

袴田牧師の説教は、神の召しに殉じた使徒パウロの生き方を浮かび上げさせ、その姿を通して、パウロが結ばれて

いた主イエス・キリストへと一人一人の聴き手、読み手を導く説教である。御言葉によって示される主イエス・キリストのみに、人々の魂を向けさせる語りは徹底している。これは、説教者自身が、主の御言葉に仕える喜びと主の御言葉の力に徹して信頼しているがゆえの「健やかな」姿勢の現れであろう。この説教集を通して、キリストの福音により健やかな教会形成への召しに与る喜びと希望へと、読者は導かれるであろう。

(さかい・すみと)日本キリスト改革長老教会東須磨教会牧師、日本福音主義神学会西部部会理事、神戸神学館教師

(四六判・二八四頁・定価三〇八〇円・教文館)

岩本遠億の本

366日元気が出る聖書のことば

あなたはひとりではない

7版出来!

聖霊の上昇気流

神は見捨てなかつた

神はあなたの真の願いに答える

ルカの福音書説教集 1

1,320円 1,980円 1,980円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL.03(3818)4851 FAX.03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

若き日のニーバーの最高傑作

〈評者〉柳田洋夫

この小見出しは訳者の評語からそのまま拝借したものである。若き日ということは未成熟を意味するものではない。本書は現代の諸問題にも対峙しうる射程を有する、早くも一つの高みに達した傑作であることは間違いない。同時に、「平静を求める祈り」（皮肉なことに、某県知事問題に関連しても取り上げられた）によっても広く知られているニーバーの思想全体を貫く「永遠の相のもとに」という視座が、この著作においても陰に陽に示されている。

本書は、イギリスの歴史家E・H・カーが、特に恩恵を受けた著作の一つとして挙げたことでも知られている。邦訳も武田清子・高木誠訳、大木英夫訳があり、この度の千葉眞訳による新訳の出版と相俟って、日本におけるニーバーならびに本書への関心の高さを物語っている。

ニーバーの議論は、「個人の道徳的社会的行動と、社会集

道徳的人間と非道徳的社会

ラインホルド・ニーバー著
千葉 眞訳



20世紀アメリカを代表する神学者ラインホルド・ニーバー(1892-1971)は、キリスト教実存主義の立場から政治と倫理の両方をめぐる鋭敏な考察を展開した。個人がより深くなれば、社会や政治の両者は回復できるのか、人間の本性とその限界の両方に注目することで、主権の究極への高きをさぐるうとした初期の主要著作(1952年刊)。

青N609-1
岩波文庫

道徳的人間と非道徳的社会

ラインホルド・ニーバー著
千葉 眞訳



団の道徳的社会的行動との間には明白な区別の線が引かれなければならぬ」という命題にもとづくものである。個人は道徳的行動が可能であっても、集団の行動は利己的になる傾向がある。そうであるとき、社会の不正義を道徳的理性的説得のみで解決することはできず、「権力は権力によって挑戦されなければならない」。それではどうするか。ニーバーが示すのは、「実際の歴史においては、実現が不可能なものであり、ただそれに接近することだけが可能である」ことをわきまえつつ、「十分な正義が実現され、強制力が十分に非暴力的に行使され、集合的人間の営みが完全な惨事に終わることとを何とか防止する」ということである。彼のいわゆる「キリスト教的現実主義」の面目躍如たるところであろう。

千葉氏による訳文は、親切な小見出しと、かゆいところに手が届く適切な割注が付されていることもあり、たいへんよ



シュメールの 王碑文を読む

前三千年紀の王たちは
何を述べたのか

前田 徹 [著]

- A5判上製 314頁
- 定価3,300円(税込)

今から四千年前のシュメール時代は原始社会などでなく、現代にも通じる文字を媒介とした独自の思考方法を持っており、文字による表現法が工夫されていた。王碑文をはじめ、年名や王讃歌が、どのように作られ、どのように使われたかを明らかにする。付録として、「シュメールの都市・文化・歴史」を収録し、旧約聖書の根源であるシュメール文明の一端を明らかにする。

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

くわかるものとなっている。ただし、ガンディーの「魂（もしくは真理）の力」をも相対化するニーバーの強靱にして精緻な思考を追うには、それなりの忍耐を要する。千葉氏とともにニーバー研究の第一人者であった高橋義文氏が、「こねこねした」文体と形容されていたことが思い起こされる。その粘り強い、また、かなりの部分時局に密着した議論のぬかるみに足を取られないように、常にその大枠を念頭に置いて読み進める必要がある。しかしまた、安直な図式的理解を決して許さない、入り組んだ弁証法的思考に満ちているのも（「ニーバー話法」の厄介なところではある。

いづれにせよ、訳者による詳細な解説が大いに助けになる。また、「集団内部のアンナキーを防止する権力は、集団間の関係においてはアンナキーを助長する」「神秘家が、まさに

自我を除去しようとする努力の熱心さそのものによって自我に取り憑かれてしまう」「社会というのは人間の偉大な成就であると同時に、大きな挫折であり続ける」等々の箴言を味わう愉しみも大きい。

ますます混迷を深めつつある現代世界において、キング牧師やオバマ元大統領にも大きな影響を与えたその思想は再び脚光を浴び、「ニーバー・リバイバル」と呼ばれている。「預言者的事であることと祭司的事であることとの、生きた美しい調和」（大木英夫）の最高度の体現者と言いつけるニーバーが、わが国においても、この度の新訳を機に、さらに広く読まれ親しまれることを切に望むものである。

（やなぎだ・ひろお 聖学院大学教授）
（文庫版・四八〇頁・定価一四三〇円・岩波書店）

建設的な聖書釈義に基づく テキストの深みへの切込み

〈評者〉 河野克也



聖霊による福音宣教

「使徒の働き」連続説教

松木 充著



松木充先生の説教集『聖霊による福音宣教』の出版を心から喜びたい。書評ではあるが、個人的な思い出から始めたい。先生との最初の出会いは、私が愛媛県で子ども時代を過ごしていた頃で、当時おそらく17、18歳？ だった松木青年は、夏の小学生キャンプにギターを抱えて颯爽と登場し、当時全盛期？ のゴスペルフォークを紹介してくれた「憧れのギターのお兄さん」だった。その後、私の父が東京聖書学院の男子寮舎監となってキャンパスで生活するようになり、松木青年が聖書学院で学ぶようになると、私は夜の自習時間に部屋を訪ねてはギターの話で盛り上がりつつ喜んでいた（勉強の邪魔でした）。私はその後アメリカに留学し、ダラスの大学院に進学した際には、一足先に留学してアメリカで牧師をしていた松木先生を慕って、ダラスのジャパニーズチャペルに通うことにした。それまで注

解書や論文などの二次文献を読むことに注力していた私は、ギリシア語テキストを丁寧に釈義し、的確に時代背景に照らして説教を語る先生の姿勢を通して、釈義の重要さを教えられた。それ以来、先生は私にとって憧れの釈義家・説教者となった。

本書は松木師がKFG志木キリスト教会で語った使徒の働き（使徒言行録）連続説教の「要約」である。「まえがき」では「週報掲載のために削りに削った文章」と説明されているが、ダラスで毎週一言も聞き漏らすまいと身を乗り出して先生の説教を聞いていた者としては、その「削りに削った」部分も非常に気になる。それでもこの説教集が「要約」の形で出版される意義は大きい。それは、松木先生が使徒の働きの中心的メッセージと考える「聖霊による福音宣教」が、研ぎ澄まされた形で明確に提示されている

特集

別冊 Ministry

教会が教会であるために 声にならない声に訊け

満を持して、「あの」雑誌が帰ってきた――。



雑誌「Ministry」が2009年に創刊して15年。地方教会で奮闘する次世代の教会者を応援したいという当初の志に立ち返り、コロナ禍の危機を経てなお教会内外に蔓延する「声にならない声」に今一度耳を傾ける。

- 「サバイバー」たちの鎮魂歌
- 実践講座「ぜんねんな言葉集」
「安心できる共同体になるために」
- 鼎談「牧師のタマゴ未来会議」
- 「ハタから見たキリスト教」
松谷創一郎（ジャーナリスト）

B5判・72頁、定価1,650円(税込)

キリスト新聞社 since 1946

169-0051 東京都新宿区新小川町9-1 4F
03-5579-2432 support@kirishin.com

からである。本説教集では、釈義家としての松木師の賜物が隅々に発揮されている。例を挙げたらきりがなが、特に教えられた点をいくつか紹介したい。私は新約学の二次文献を読む中で、パウロとエルサレム教会、特に主の兄弟ヤコブとの関係について、テキスト自体が描くよりも対立的に読んできたのだが、先生は両者の関係をより和解的に読み、両者が互いに「命がけの配慮・決断」によって教会の一致を守ったことを強調する（「お互いのための配慮」306-310頁）。正確なテキスト釈義は、釈義家の信仰者としての人格を形成する。また時代背景の点では、ピリピでの占いの霊に憑かれていた「若い女奴隷」の癒しについて、当時の奴隷が置かれていた状況から、この霊の追放が彼女自身の解放であったことを説明し、さらに現代の経済的搾

取の状況についても警鐘を鳴らす（「イエスの御名による解放」246-250頁）。このピリピが「ローマの植民都市、皇帝直轄地」だったことから、「パウロのローマ行きがヴィジョンは、ピリピで抱いたものだった」と推測するが（240, 242頁）、その推測には説得力がある。他にも随所で、ローマ帝国の支配下での民族主義の高まりなどを背景に説得的な釈義を展開する。

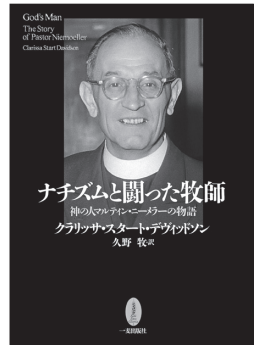
本書は福音宣教が聖霊の働きによることを力強く証しし、現代の私たちもまた、聖霊に押し出されて宣教の働きを担うようにと招く。ぜひこの説教集に導かれて使徒の働きを読み進め、その招きに応えていただきたい。

（かわの・かつや 東京神学大学特任准教授
（四六判・三七四頁・定価一九八〇円・ヨベル）

＋本・批評と紹介

ナチズムと闘い、平和のために 生きた牧師ニーメラー

〔評者〕 武田武長



ナチズムと闘った牧師

神の人マルティン・ニーメラーの
物語

クラリッサ・スタート・

デヴィッドソン 著

久野 牧訳



久々にマルティン・ニーメラーについての本が出た。没後四十年である。

本書は、生前のニーメラーと面識のあったアメリカ人女性ジャーナリストのクラリッサ・スタート・デヴィッドソンが、一九五九年までのニーメラーの生涯を書いて同年に出版したものの翻訳である。

原著のタイトルは『神の人——ニーメラー牧師の物語』^{ストーリー}である。本訳書を評者は深い感銘をもって読んだ。本書は教会史の学術書を読むのとは違い、訳者あとがきに記されているように、「あまり専門的すぎて難解なものではなく、ニーメラーの人物像が生き生きと描き出されて」おり、著者デヴィッドソンは優れたストーリー・テラーだと言っ
よいだろう。

本書は三〇〇ページもある重厚なものであるが、女性

ジャーナリストの公正な判断力と鋭い洞察力をもった調査報道を、リアルタイムで読むようなスリリングな思いを随所で懐かしめられる。思わず終章までこのニーメラーのまさに「疾風怒濤の半生の伝記」を読み終えてしまった。

全体は29章から成る。その生涯を特徴づけるキーワードを挙げてニーメラーの生涯の赤い糸をたどってみよう。

・ 第一次世界大戦時にはドイツ海軍のUボート（潜水艦）司令官（第2章）、（Uボートから説教壇へ）（第3章、因みにこの表題はニーメラー牧師の処女作「一九三四年」のタイトルでもある）、一九三二年、ベルリンのダーレムの教会の牧師（第4章）

・ 一九三三年＝運命の年アドルフ・ヒトラーとそのナチ独裁政権との対決、牧師緊急同盟の結成（第7、8章）、「バルメン神学宣言」（一九三四年）＝告白教会に拠るドイ

ツ教会闘争の開始(第9、10章)

・ニーメラー牧師の逮捕(一九三七年、説教壇から刑務所へ)(第11章)、ヒトラーの「個人的な囚人」としてザクセンハウゼン強制収容所に投獄される(第12章)、ミュンヘン郊外のダッハウ強制収容所に移され(第14章)、一九四五年に連合国アメリカ軍によって解放されるまで、合計八年間の獄中生活を送る(第17章)

・第二次世界大戦後、獄中から生還したニーメラーは、まず第一に、「シウトウツトガルト罪責宣言」(一九四五年)によって、ドイツの教会の罪責とドイツ国民の罪責の告白を世界に向けて公にする(第20、22章)。第二に、戦後出発した新しい国家(西ドイツ)のアデナウアー政権の再軍備に反対し、平和と非核武装のための闘いへ邁進する(第25、27章)。

このような劇的な生涯の中でのニーメラーの家庭人としての姿を描いた第28章などはまことに美しいエッセーである。

また第15章が記しているダッハウ強制収容所内のエキキュメニカルな交わり、あるクリスマスにおけるさまざまな教派の囚人たち⇨改革派教会のオランダ人、英国国教会のイギリス人、ルター派のノルウェー人、ギリシヤ正教会の

ユーゴスラビア人、特定の教派には属していないマケドニア人と共に主の晩餐に与る情景は感動的である。

「エキキュメニカルな神の人」と著者が言うのもゆえなしとしない。著者は戦後冷戦時代に直面したニーメラーを「東と西の架け橋」となって奔走する実践的な平和主義者として描いている。そして今日のためにはニーメラーのことを伝えてくれている——「もし戦争を防ぎたければ、平和のために働かなければならない」。「今日の世界における教会の務めは、平和を実現することである」。「平和主義こそが人類にその〈最後のチャンス〉をもたらすものである」。「世界の希望は、歴史の初めも、中世の時代も、ナチスの時代も、そして今日も、いつも変わることはない。それは神の愛と、御子イエス・キリストの信仰と希望と理想への服従である」。

訳もこなれていて読みやすい。マルティン・ニーメラーの存在と行動の今日的意味を考えると、本書の出版を可能にした訳者と一麦出版社の慧眼に感謝しつつ、わが国の多くの人々に読んでほしいと願うものである。

(たけだ・たけひさ⇨元日本キリスト教会神学校ドイツ語講師)

(A5判・三二六頁・定価三七四〇円・一麦出版社)

祈りを初めて学ぶ人にも 祈りの熟練者にも

〈評者〉 近藤 誠



信仰生活ガイド
祈りのレッスン
柳下明子編



月刊誌『信徒の友』に掲載された記事をまとめなおし、「信仰生活ガイド」として書籍化されたシリーズのうちの一冊である。これまで第1シリーズとして全5巻が発刊されており、本書は第2シリーズの第1巻、題名の通り「祈り」がテーマとなっている。以降、続刊が予定されている。「信徒の友」（1995年から2023年まで）から、カトリックもプロテスタントも、教派的背景を問わず13名の著者が選ばれており、それぞれの深い見識によって、読者は「祈り」の魅力や豊かさを存分に味わうことができる。「レッスン」という語感から手に取りやすく、祈りについて初めて学びたいという者にはもちろん、普段から祈りを欠かさない者にも新たな視座が与えられるだろう。

目次を開くと、執筆の年代順ではなく、「祈りとは」「祈りの遺産」「教会での祈り」、そして「聖霊と祈り」と

いう項目で括られている。また、著者ごとに完結した内容のため、どこから読んでも構わない。再編集されたものという意味では、以前読んだ内容を思い出しながら学び直すことができる上に、個人的には天上の友となった著者を偲ぶことにもなった。次に、いくつか内容を挙げてみよう。

「祈りとは」の中で深田未来生氏みきおは、「祈りはキリスト者の呼吸である」としている。すなわち、祈りが絶えれば信仰は生命を失うということになる。そして、祈りには必ず相手があり、例えばヨブのぼやきささえ、祈りの一つの形となることを教えている。また、「祈り集」を「食べる」ように読みながら祈ることの秘訣や、私的な祈りと公的な祈りについての考察によって、祈りの原点を説き明かされた。

「教会での祈り」の最初の記事は、荒瀬牧彦氏による「礼拝でささげられる祈り」となっている。特に、『日本基

「主日礼拝式B」に沿って、これに含まれる7つの祈りについて解説がなされている。また、自由祈祷と成文祈祷は対立するようなものではなく、両者は互いに高め合う関係にあると述べておられる。

「祈りの遺産」では、今橋朗氏あきつらによって、「主の祈り」の構造そのものに意味があることを示される。主が教えてくださったこの祈りによって世界の諸教会は一つとされていることから、「主の祈りを祈る人は孤独ではあり得ない」と励まされる。

「聖霊と祈り」で中村佐知氏は、「静かに主の前に座り、主に思いを向けることも祈り」と述べられている。巻末に、氏が2022年度に『信徒の友』で連載した「主に思いを向ける」の中から、示唆に富んだ祈り方が6つ掲載されて

いる。「呼吸の祈り」や「塗り絵をしながら」といった興味深い祈り方の提案は、祈りを固定化やマンネリから解き放つ可能性を感じさせられる。

全ては紹介できないが、一つひとつに著者らの祈りに対する真摯な姿勢が表れている。読者それぞれにも独自の祈りの呼吸法があるだろうが、これらのレッスンを通してより健全で健康な祈りを身につけたい。また、全体として洗礼準備会のテキストに相応しいと考えられるし、成文祈祷や式文の解説、具体的な祈り方のポイントなどが例示されているため、教会での読書会や役員研修会などにもふさわしい。礼拝や祈祷会の備えに用いることもできよう。

(こんどう・まこと) 日本基督教団 仙台北教会牧師
(四六判・一二八頁・定価一五四〇円・日本キリスト教団出版局)

月曜日の復活

塩谷直也



「説教」終えて
日が暮れて

キリスト教伝道者に向けて書かれた一冊。説教を準備する上で著者が大切にしていることや、説教者が一週間で経験する心の動きなど、「説教」に苦しみあえぐすべての人に贈る、深い慰めのメッセージ。
四六判並製・128頁・定価1540円

信仰生活ガイド 全8巻

《第2期第2回配本》



山口紀子 編

「信徒の友」記事を書籍化する、信仰生活入門シリーズ第2弾。認知症や介護、高齢者施設、さらには葬儀の備えも含め、十数名の著者が多角的にわかりやすく解説。
四六判並製・128頁・定価1540円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457

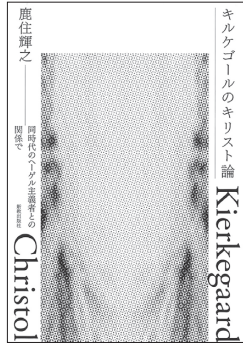
E-mail eigyoubu@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)

<https://bp-uccj.jp>

状況の中で苦闘する姿を 浮き彫りに

〈評者〉 須藤孝也

キルケゴールのキリスト論 Kierkegaard



キルケゴールの キリスト論

「同時代のヘーゲル主義者との
関係で

鹿住輝之著



これまでのキルケゴール研究の多くが、論者がその実存をかけてキルケゴールと対決したり、高みにあるキルケゴールを見上げたりする自身の様を記述するものであった。

そうした研究は、キルケゴールの思想世界を開示して見せるといふ長所を確かに備えていたのだが、裏面において、キルケゴールが果たした仕事は何だったのか、という問題に客観的に答えるということに関しては決定的な困難を抱えるものであった。そのことを顧みれば、本書が、キルケゴールが生きた社会的、政治的、思想的、宗教的状況を再現し、その中で苦闘するキルケゴールの姿を浮き彫りにして見せた点は、どんなに高く評価しても、高く評価しすぎることはない。

ハイペアやマーテンセンは、社会の上層部に生きるいわば「勝ち組」として、価値規範を社会のレベルで確定させ

ようとす。彼らにとって伝統宗教たるキリスト教は、既存の「社会秩序」が維持されるためになお有効な宗教、より正確には、有効であらねばならない宗教であった。

他方、一人たるキルケゴールにしてみれば、キリスト教信仰は、まずもって自身の問題であった。ある種、時代精神のように浸透していたイロニーは、キルケゴール自身のうちにも深く巣くっていたのであり、これを超克することとは、同じ社会に生きる他者たちにとっての問題であるよりもまず自身にとっての課題であった。キルケゴールは、自身の実存を刷新するものとして、キリスト教を自ら再発見ないし再構成しなければならなかった。ハイペアやマーテンセンよりもキルケゴールその人の思想が、現代でも少なからずの人々の関心を惹くのは、そのゆえであるとも言える。

キルケゴールはキリスト教に対する自身の関わりを精査していった。そしてその作業は、キリスト教に対する「適切な」関わり方を社会的に明らかにする作業であるとともに、とりわけ教会人たちに對し、キリスト教を「適切に」理解するよう求めるものでもあった。そのキリスト教は、ハイペアやマーテンセン、あるいはヘーゲルが考えたとは異なる仕方で、人間理性と関わるものであった——あるいは関わらないものであった。キリスト教が19世紀において「危機」を乗り越えるために必要だと考えられた「修正」を、キルケゴールもまた示したのである。

こうした点を明らかにしたことを高く評価した上で、さらに鹿住氏に論じ進めてほしいのは、ハイペアやマーテン

センを振り払うようにして、いわば「人間」の領域から脱却して実定宗教たるキリスト教の領域へと進んでいったキルケゴール思想について、私たちはキリスト教という基準からしか評価しえないものなのか否かという問題についてである。評者もまたこの問題について研究を進めており、決してキルケゴールはキリスト教思想家としてのみ意味をもつのではなからうと思うのだが、しかしではどういった基準によって評価したらいいのか、なかなか答えが見つからない。今後も鹿住氏が進めていかれる研究に注目したい。

(すとう・たかや〓大東文化大学教授
(A5判・三〇〇頁・定価四九五〇円・新教出版社)

神学ダイジェスト136号

急速な変化を遂げる現代社会。その中において、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2024年6月発行
A5版128頁
定価638円(税込)

特集 キリスト教ヒューマニズム
巻頭言 キリスト教ヒューマニズム
イグナチオ的教授法―ヒューマニズム+ T:ツイマーマン
キリスト教 人間中心主義、エコロジー危機 A:ル・ドゥエック
K:ラーナーとキリスト教ヒューマニズム A:ラップフェルト
教育と神学の関わり J:C:マーレイ
トラーと人権 R:ネッスラー
ヘブライ語聖書における戦争 T:レーマー
コロナ禍における社会教説の忘却 S:フオンタナ
女性助祭についてのシンドスの識別 P:ザガノ
好評連載「典礼参加へと招かれて」「私は思ったより大丈夫」

上智大学神学会
神学ダイジェスト編集委員会
東京都練馬区上石神井4-32-11
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

■日本キリスト教団出版局

苦しみの意味

筒井昌司、榊原寛、昆美也、大野智子、小池善、大宮博、高橋克樹、保さら、山中正雄、木原活信、神代真砂実、渡辺正男、安積力也、牛山敬、左近豊、柳谷雄介著
柏木哲夫監修

病氣、事故、災害、愛する人の死……このような一見不運な出来事からいかに立ち上がったか、その不運が人をどう変えたかを考察することにより、苦しみの意味を考える。

四六判・128頁・定価1540円

皆川達夫セレクション

ルネサンス古楽の記譜法

——白符計量記譜法入門

皆川達夫著
樋口隆一、宮崎晴代監修

五線譜誕生前夜、ルネサンス期の古楽譜を原典で歌う上で必須の知識を、豊富な実例・譜例を交え初学者向けにやさしく解説する、古楽愛好家待望のテキスト。

B5判・64頁・定価3080円

未来への言葉

——クリスチャン・エンディングノート

高橋貞二郎、増田 琴監修

やがて必ず迎える人生のエンディング。それに備えるばかりではなく、残された人生をいかに生きるかを考えるためのノート。

B5判・80頁・定価1760円

INFORMATION

近刊情報

イザヤ書を読もう 上

——ここに私がおります

大島 力著

イザヤ書研究の第一人者が、イザヤ書1章から39章までの「第一イザヤ書」を分かりやすく読み解く。イザヤ書通読のために不可欠のガイドブック。

四六判・224頁・定価2860円

■新教出版社

現代エキユメニカル運動史

——ジェンダー正義の視点から読み解く

藤原佐和子著

女性接手やセクシュアリティに関わる問題群をめぐる、世界教会ではいかなる論争と実践が展開されてきたのか。「WCCジェンダー正義に関する基本原則」の採択にいたる複雑な流れを丹念にたどる。これまでにない新たなエキユメニズムの歴史。

A5判・二四〇頁・予価3740円

■教文館

若者と生きる教会・若者に届く説教

大嶋重徳著

好評を博した2冊を合本化。新たに主任牧師になってからの取り組みも加えた増補版。

四六判・240頁・定価1980円

全国のキリスト教書店員が選んだいちばん読んでほしい本

キリスト教書店大賞2024



2023年1月～12月に出版されたキリスト教書の中から
全国のキリスト教書店員の投票により大賞が決定!

大賞決定

主催 キリスト教出版販売協会
価格は10%税込

大賞

証し

日本のキリスト者
最相葉月 著 定価3,498円



横浜キリスト教書店
高橋友彦さん
少数派である日本のキリスト者。多くの牧会者と信徒の方々の体験を基にした「証し」が決して一様でないことを考えさせられる。自分自身の信仰について振り返る時に良い示唆を与えてくれる本。

オススメ!

受賞のこぼ

著者 最相葉月



撮影:平瀬拓

投票してくださった書店員の皆様、ありがとうございました。6年間の取材でお預かりしたキリスト者の言葉一つひとつを改めて思い起こし、皆様のご推薦を力にさらなる未来にお届けできることを心から感謝申し上げます。

KADOKAWA

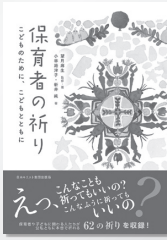
日本キリスト教団出版局

第2位

保育者の祈り

こどものために、こどもとともに

望月麻生 監修・著
小林路津子/新井 純 著
定価1,320円



CLCからしだね書店
坂岡凱歌さん

オススメ!

こどもの心に寄り添い、隠れた思いを無視せず、丁寧に拾い上げて、より良いものへと導こうとする、保育者の祈りの言葉が書かれています。

非暴力の教育

今こそ、キリスト教教育を!

第3位

小見のぞみ 著
定価1,760円

非暴力の教育

今こそ、キリスト教教育を!



京都ヨルダン社
田代伸一さん

オススメ!

教える者と教えられる者が認め合い、学び合い、感謝し合う、そこに教育がある。

日本キリスト教団出版局

他の ノミネート作品

(タイトル50音順)

あなたはあなたの ままでいい

とっておきの
聖書のことば23
片柳弘史 著
RIE 絵

定価1,595円
PHP 研究所



疑いながら信じてる50

新型キリスト教入門
その1
富田正樹 著

定価1,540円
ヨベル



カール・バルト 《教会教義学》の世界

寺園喜基 著

定価3,080円
新教出版社



交差するパレスチナ 新たな連帯のために

在日本韓国
YMCA 編

定価2,640円
新教出版社



これからを生きる あなたへ

聖書の知恵
箴言31日
小林よう子 著

定価1,320円
日本キリスト教団出版局



夕暮れに、なご光あり。

老いの日々を生きるあなたへ

小島誠志/
川崎正明/
上林順一郎/
島しづ子/
渡辺正男 著

定価1,650円
キリスト新聞社



わたしが「カルト」に?

ゆがんだ支配はすぐそばに

齋藤 篤/
竹迫 之 著

川島堅二 監修

定価1,650円
日本キリスト教団出版局



キリスト教書店大賞フェイスブックページ
<https://www.facebook.com/christianbookoftheyear/>

「いいね!」をクリックして
最新情報をGET!
QRコードで簡単アクセス! →



書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrikan_system_0530@ghoo.co.jp	02350-0-874
エッセイの木	980-0012	仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ1F	022-223-2736	022-302-6678	https://sendaicbs.uccj.jp/	info@sendaicbs.uccj.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新館2-1 千葉カリスチャペルビル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
待晨堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimbo.com/	taishindo@ej.com.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	112-0014	茨城県日立1-44-4 茨城県日立市納戸駅前(例年休館)	03-3260-5663	03-3260-5637		tokyo@nikkiban.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.lighter.jp/~yokohamacs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	岐阜市瑞穂区瑞穂16 日本キリスト教団瑞穂会館	052-680-8090	052-680-8091	http://nagoya-seibunsha.la.coccan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osekacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkiban.co.jp	00170-2-421390
広聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道ノ西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwb3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一乃町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.gojocs.jp/roshiyama_1007/index.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.simseikan.jp/	info@simseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacbs.net	info@okinawacbs.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

福音と世界

2024年9月号

特集Ⅱ子どもとキリスト教

地域社会と教会

寄稿者Ⅱ小見のぞみ、安川千穂、小林休

東義也、望月麻生、吉田新

ウクライナ戦争即時停戦論とドイツのキリスト教

会3（川田洋）／好評連載 女たちの闘い

石川治子さん、証言としての旧約聖書（田島卓）

「日本のキリスト教」を読む（山口陽）、新約

釈義ルカ福音書（山崎ランサム和彦）、他

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

から室集編

NHK朝ドラ「虎に翼」から目が離せない。日本初の女性弁護士で後に裁判官となった三淵嘉子をモデルに描くオリジナルストーリー。法曹界をはじめ多くの識者も熱心に視聴し、さまざまに論評されている。

女性が一人格として認められなかった昭和初期。本当にこんな時代があったのかと目を疑いつつ、どこか現代にも通じる台詞が胸に刺さり、今なお変わらない根源的な問題に気づかされたというシーンは枚挙に暇がない。「女のくせに」「分をわきましろ」という常套句で、声なき声を封殺してきた負の歴史は連綿と繰り返されている。

新五千円札の顔に選ばれた津田梅子を挙げるまでもなく、女性の社会進出においてキリスト教主義の教育機関が果た

予告

本のひろば

2024年10月号

本・批評と紹介

（巻頭エッセイ）齋藤五十三（書評）齋藤五十三
『信仰生活ガイド 老いと信仰』E・ユンゲル著
『義認の福音』須藤英幸著『ルターの恩恵論と
「十字架の神学」』メアリー・タムソン著『タム
ソン宣教師夫人メアリーの日記』他

した役割は大きい。

他方、教会には性差別が根深く残る。牧師と結婚したただけで「牧師夫人」と呼ばれ、「教会の奥さん」「お母さん」的な存在として無言の圧力と理不尽な要求にさらされる。「神の前で正しくあれ」と、表面的な「清さ」「正しさ」ばかり重んじられ、感謝と喜びに満ちた信仰生活にそぐわない負の感情には蓋をすることに慣れてしまう。波風立てぬように物言わぬ空気を、「持ちつ持たれつ」で穏便に済ませようとする体質にも既視感しかない。

100年たっても残念ながら、無神経に「女（おんな）子ども」と言い放つてはばからぬ都知事候補が、無党派層を中心に165万の得票を記録するという世界に私たちは生きている。それでも執念深く、旧態依然の日本社会に「はて？」を突きつけ続けるしかない。（松谷）

イエスに従う

弟子として生きることにへの招き

N・T・ライト著 本多峰子訳

「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」



私たちはイエスを歴史的に探求することに熱心であっても、そのイエスに従おうとしているだろうか？ イエスの弟子として生きるとはどういうことなのか？ 新約聖書学の第一人者が、新約聖書の各書からイエスの弟子の聖書的モデルを指し示した、待望の説教集。

● 四八判・並製・200頁・定価2,310円

既刊好評発売中！

悪と神の正義

N・T・ライト著 本多峰子訳

悪と不条理がはびこるこの世界で、神は何をしておられるのか？ 十字架による神の最終的勝利と神の王国を見据え、今を生きるキリスト者を新しい使命へと導く画期的な書。現代を代表する新約聖書学者による新しい神義論の試み。

● 四六判・並製・216頁・定価2,200円



メソジスト入門

ウェスレーから現代まで

W・J・エイブラハム著

加納和寛／赤松真希訳

「新しいペンテコステ」の現在地がここに！



ウェスレー兄弟の霊的覚醒から世界に広まり、ホーリネス運動やペンテコステ派にも繋がる一大教派の信仰と実践とは？ メソジスト派の実態をまるごと解説！

● 四八判・並製・246頁・定価2,640円

既刊好評発売中！

はじめてのウェスレー

W・J・エイブラハム著 藤本満訳

ウェスレーの生い立ちから、アメリカにまで渡った宣教への熱意と挫折、メソジスト・ソサエティの形成や、聖化論の神学的展開、そして彼の倫理観・美徳観に至るまでを、ウェスレー研究の第一人者が書き下ろした入門書の決定版。

● 四八判・並製・244頁・定価2,090円



ロゴセラピー

人間への限りない畏敬に基づく心理療法

エリーザベト・ルーカス著／草野智洋・池田繁子訳 フランクルの高弟による体系的な教科書。ロゴセラピーは、人間を身体・心理・精神の三次元で捉える。とりわけ生の意味を問う精神次元を重視する技法は、医療と心理のみならず、教師や宗教者など人と深く関わる全ての者にとって深い示唆に富む。

8月23日 ◆A5判・定価3300円

内村鑑三問答

大反響

鈴木範久著 70年にわたり内村と向き合い続け、内村研究を主導してきた著者が、「なぜ最初の結婚は破綻したのか」「天皇をどうみたか」など、更なる解明を要する24の「謎」を取り上げ、その人格と思想に迫る。巻末に、著者が現時点で最も正確と考える年表を付す。

◆四六判・定価2970円



クイア神学入門

その複数の声を聴く

クリス・グリノフ著／薄井良子訳 レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー等々、ジェンダーやセクシュアリティの点で非規範的であることを意味する「クイア」。その基本概念を平易に解説し、クイアと向き合う多様な神学と最前線の議論を紹介する。

◆四六判・定価2970円



奴隷より身を起して

ブッカー・T・ワシントン 自伝

奴隷として生まれた少年が志を立て、苦学力行の末に成功していく過程を、生き生きと語る。黒人「保守派」の元祖と目される人物の自画像。必要なのは同化か闘争か？ 大森一輝氏（北海学園大学）によるワシントンの評価・受容をめぐる充実した解説を付す。

◆四六判・定価2860円



ロゴセラピーと物語

重版出来！

フランクルが教える〈意味の人間学〉

勝田茅生著 (NHK「こころの時代」講師) ◆B6変型判・定価1760円

フランクルの創始したロゴセラピーの中心メッセージを、民話や寓話を例にとりながら分かりやすく説き明かす。著者はNHK こころの時代「ヴィクトール・フランクル」の講師 (2024年4月～9月、第3日曜日/同週土曜日放映)



本のひろば.com

